

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に年間を通して校内研修を充実させ、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢を身に付ける。③学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。④一人ひとりの学習状況を把握し、学習意欲につなげるためノート指導を徹底する。	全教職員で学習に向かう基本姿勢の指導にあたり学習が成立するよう努力した。国語科重点研究を柱に授業改善と授業力の向上に取り組む。教員は手ごたえを感じている。「わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業の実現」に向け児童の進んで学ぼうとする意欲の向上・基礎学力の向上に引き続き取り組む。	B	確かな学力	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に、校内研修の充実を図り、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢を身に付けるようにする。③ノート指導に丁寧に取り組み、一人ひとりの学習状況の把握と学習意欲の向上につなげる。④学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。	児童が学習に向かう基本姿勢を身に付けられるよう、全教職員で情報を共有しながら指導を積み重ねた。国語科重点研究を柱に授業改善と指導力の向上に取り組む。自分の思いを表現できる児童が増えてきた。授業づくりを通して、意欲の向上・基礎学力の向上を目指して取組を続けていく。	B	確かな学力	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に、校内研修の充実を図り、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢を身に付けるようにする。③ノート指導に丁寧に取り組み、一人ひとりの学習状況の把握と学習意欲の向上につなげる。④学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。		
豊かな心	①年間を通して仲良く班遊びの時間を設定し縦割り班活動を通し異学年同士のつながりを築く。全校遠足、運動会等も縦割り班を活用しかわり合いを大切にす。②挨拶を学年に応じて指導するとともに子ども自身の取組として代表委員会等でも展開する。③小中協力で人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪を判断し人権を尊重する心をはぐくむ。	年間を通して異学年同士の関わり合いを大切に活動が展開された。挨拶は洗剤として取り組む個人と学年に差がある。小中協力で人権研修を実施。規範意識・物事の善悪を判断し実行できるよう防犯教室等も実施し動きかけ続けた。児童運営委員会「ありがとう」を伝える活動が展開され拍手を尊重し感謝を伝える姿勢を育てる。	B	豊かな心	①年間を通して仲良く班遊びの時間を設定し、縦割り班活動を通し異学年同士のつながりを築く。全校遠足等も縦割り班を活用し関わり合いを大切にす。②挨拶を学年に応じて指導するとともに児童自身の取り組みとして活動する。③小中協力で人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪を判断し人権を尊重する心をはぐくむ。	縦割り活動は、年間を通して、特活部を中心に行われた。異学年同士が関わり合うことで、友だちとの差異をこえて、協力しているという気持ちが養われていった。挨拶が大きな声でできる子もいる一方で、全体で見るとまだ指導が必要であると思われる。1小1中の関係で、互いに連携できた。	B	豊かな心	①年間を通して仲良く班遊びの時間を設定し縦割り班活動を通し異学年同士のつながりを築く。交流活動を通して関わり合いを大切にす。②挨拶を年間を通して学年に応じて指導するとともに児童自身の取り組みとして活動する。③小中協力で人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪を判断し人権を尊重する心をはぐくむ。		
健やかな体	①学校便りや保健便り・学級指導を通して早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を図り、児童の体力向上と自己の健康管理能力を高める。②給食後の歯磨きに全校で取り組む。③長縄やドッジボール大会など運動に親しむ機会を増やす。④給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、異物混入等の危機を未然防止し安心安全な給食を実施し、食教育に取り組む。	運動会でも生かした年間を通して、長縄に取り組み運動に親しむ機会を増やすとともに、学級での協力や励ましあいにつなげる活動とした。給食後の歯磨きに全校で取り組み、歯の衛生への意識付けを継続している。給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、異物混入等の危機を未然防止し安心安全な給食を実施し、食教育に取り組む。	B	健やかな体	①学校保健委員会から体づくりの意識を高める提案を行った。長縄やドッジボール大会など運動に親しむ機会を増やす。②学校便りや保健便り・学級指導を通して児童の体力向上と自己の健康管理能力を高める。③給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、安心安全な給食を実施し、食教育に取り組む。	学校保健委員会から体幹部トレーニングの提案を行った。長縄、ドッジボール大会に向けて外で遊ぶ児童が増えた。保健目標をもとに学級指導を行い、自己管理への意欲がもたれた。給食指導については、研修での共通理解のもと指導にあたることができた。アレルギー対応は、安全に実施できた。	A	健やかな体	①学校保健委員会を中心に生活習慣等について発信し、健康についての意識を高める。②学校便りや保健便り・学級指導を通して、児童の体力向上と自己健康管理能力を高める。③長縄やドッジボール大会など運動に親しむ機会を増やす。④給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、安心安全な給食を実施し食教育に取り組む。		
児童・生徒指導	①児童支援専任教諭を中心に、教職員全員で共通理解のもと児童指導に当たる。②毎月の職員会議等で児童についての情報交流を行う場を設け、全職員で指導の方向性を一致させて支援に取り組む。③情報の共有・報告・連絡・相談の励行と経過の記録を蓄積する。	児童支援専任教諭を中心に、教職員全員で児童指導に取り組んでいる。児童指導に関する問題への対応は迅速で教職員間で連携が図られた。児童の困り感や変化をいち早くつかもつとする意識を高めると、日ごろからの児童理解と支援により一層取り組む必要がある。	B	児童・生徒指導	①学校長のリーダーシップのもと、児童支援専任を核として教職員で共通理解を図り児童指導に当たる。②毎月の職員会議等で児童についての情報交流を行う場を設け、指導の方向性を一致させて全職員で支援に取り組む。③情報の共有・報告・連絡・相談の励行と経過の記録を蓄積する。	教職員全員で共通理解のもと児童指導に取り組むこととなった。児童指導に関する問題への対応は、教職員間で連携が図られた。児童の困り感や変化を早期発見・早期対応するなど、日ごろから情報交換や相談を重ね、児童理解と支援に取り組む必要がある。	B	児童・生徒指導	①学校長のリーダーシップのもと、児童支援専任を核として教職員で共通理解を図り児童指導に当たる。②毎月の職員会議等で児童についての情報交流を行う場を設け、指導の方向性を一致させて全職員で支援に取り組む。③情報の共有・報告・連絡・相談の励行と経過の記録を蓄積する。		
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に関係機関やSC、非常勤講師との連携も充実させる。②一人ひとりの課題に応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。	特別支援コーディネーターと児童支援専任が中心になり関係機関やSC、非常勤講師とも連携を図り支援が必要な児童や学級へ働きかけ、支援体制を作った。取り組みは継続中である。個別の支援計画や指導計画の作成に引き続き取り組み(教職員アンケート75%)支援に生かす取り組みが必要である。	B	特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に関係機関やSC、非常勤講師との連携を充実させる。②一人ひとりの課題に応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。③支援が必要な児童への対応を充実させる。	学校長のリーダーシップのもと関係機関やSC、非常勤講師とも連携を図り支援が必要な児童や学級へ働きかけ支援を行った。支援が必要な児童への対応を充実させるために個別の指導計画の作成を図る。困りからの連携ではなく情報交換を計画的に行い更に学校支援体制を充実させたい。	B	特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に関係機関やSC、非常勤講師との連携を充実させる。②一人ひとりの課題に応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。③支援が必要な児童への対応を充実させる。		
教師力の向上	①特別支援教育を基盤に教職員一人ひとりの児童理解の質を高める。②教職員が各々の専門性を生かし、互いの学級経営や授業を見合いながら自他共に授業力・教師力を高める。③教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広めることができるよう支援するとともに、研修内容を校内に還元できるように促す。	教員が区や市研究会等に積極的に参加し、実践提案する機会が増えてきている。研修した内容が校内へ還元できるよう引き続き意識していきたい。	B	教師力の向上	①特別支援教育を基盤に教職員一人ひとりの児童理解の質を高める。②教職員が各々の専門性を生かし、互いの学級経営や授業を見合いながら自他共に授業力・教師力を高める。③教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広め、研修内容を校内に還元していく。④危機管理能力向上を図り、学校現場での事例を基に、日ごろから対応策等に取り組む。	重点研究と区の一斉研を関連させ学校全体で取り組むことができた。区や市研究会等に積極的に参加し、実践提案する機会が増えた。研修した内容が校内へ還元できるよう引き続き意識していきたい。療育センターやセンター機能を活用し研修を深め危機管理についても研修を重ねたい。	B	教師力の向上	①特別支援教育を基盤に教職員一人ひとりの児童理解の質を高める。②教職員が各々の専門性を生かし、互いの学級経営や授業を見合いながら自他共に授業力・教師力を高める。③教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広め、研修内容を校内に還元していく。④危機管理能力向上を図り、学校現場での事例を基に日ごろから対応策等に取り組む。		
地域と学校との連携	①学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。②上白根中学校区学校運営協議会の意見を真摯に受けとめたり保護者や学生ボランティアの協力を積極的に取り入れたりする。児童の安全対策について発信、協力を依頼する。③幼保小連携の一層の充実を図る。④学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。	学校評価アンケートから「学校は教育方針や情報をわかりやすく学校便りなどで伝えていく」にに対し84.8%の保護者が「できています」と回答があったが、HPの更新等情報発信については改善が必要である。幼保小中の連携は年間を通して計画的に進められ、本校の特色の一つになっている。	C	地域と学校との連携	①学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。②上白根中学校区学校運営協議会の意見を真摯に受けとめたり保護者や学生ボランティアの協力を積極的に取り入れたりする。児童の安全対策について発信、協力を依頼する。③幼保小連携の一層の充実を図る。④学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。	HPの更新等情報発信については昨年度より定期的に更新している。今後もよりよい情報発信ができるよう改善していく。学生ボランティアを積極的に活用し、学校運営にかかすことができた。幼保小中の連携は年間を通して計画的に進められ、本校の特色の一つになっている。	C	地域と学校との連携	①学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。②上白根中学校区学校運営協議会の意見を真摯に受けとめたり保護者や学生ボランティアの協力を積極的に取り入れたりする。児童の安全対策について発信、協力を依頼する。③幼保小連携の一層の充実を図る。④学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。		
				いじめへの対応	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」や定期的な実態調査を実施し、受容的な学級づくりや環境づくりに努める。②道徳教育や人権教育の充実を図り「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、組織的な対応力の向上を図る。③保護者との日常的なコミュニケーションを図るとともに関係機関との連携・協働を密にする。④効果的な職員研修を実施しより理解を深める。	いじめアンケートを実施し、結果を学年研で共通理解した。教職員・子ども・保護者間での信頼関係づくりや、教職員間の報告・連絡・相談を図り、いじめの未然防止に取り組んだ。来年度は、「いじめアンケート」「子どもの社会的スキル横浜プログラム」に加え「YPアセスメント」も活用していく。	B	いじめへの対応	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」や定期的な実態調査を実施し、受容的な学級づくりや環境づくりに努める。②道徳教育や人権教育の充実を図り「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、組織的な対応力の向上を図る。③保護者との日常的なコミュニケーションを図るとともに関係機関との連携・協働を密にする。④効果的な職員研修を実施しより理解を深める。		
人材育成・組織運営	①初任研の充実を図り、併せてメンターチームによる人材育成研修を活性化させる。②経験値の高い学年主任と若手という学年体制を基本に、日常の業務中の学びをお互いの成長につなげる。③主幹教諭を中心とした組織の中で、教職員一人ひとりが自分の役割を自覚しよさを発揮しながら、提案型組織となるようにする。	学年間で相談連携を図り学年運営にあたった。日常の業務中の学びがお互いの成長につなげられるよう、今後とも取り組みが必要である。校務分掌の内容の明確化を図り、引き続き適切な仕事と役割分担を通して成長を図ることが課題である。	C	人材育成・組織運営	①初任研の充実を図り、併せてメンターチームによる人材育成研修を活性化させる。②学年やブロック体制を基本に、日常の業務中の学びをお互いの成長につなげる。③主幹教諭を中心とした組織の中で、教職員一人ひとりが自分の役割を自覚しよさを発揮しながら、提案型組織となるようにする。	初任研は、チームリーダーの下、計画的、主体的に運営することができた。学年間で相談連携を図り学年運営にあたった。日常の業務中の学びがお互いの成長につなげられるよう、今後とも取り組みが必要である。校務分掌については、仕事内容を効率的に行えるよう改善していく。	B	人材育成・組織運営	①年次研修の充実を図り、併せてメンターチームによる人材育成研修を活性化させる。②学年やブロック体制を基本に、日常の業務中の学びをお互いの成長につなげる。③主幹教諭を中心とした組織の中で、教職員一人ひとりが自分の役割を自覚しよさを発揮しながら、提案型組織となるようにする。		
ブロック内相互評価後の気づき	・小中合同会議を年間3回にわたって実施している。9年間を見通した教科の繋がりを把握しながら、各学年の市学習状況調査から見えてきた結果を、小中学校で話し合っている。今後も継続して学力向上のための方策を練ってきたい。 ・市学習状況調査のデータを見ながら話し合う機会が年度末に設定されているが、計画的な学力向上を図るために、次年度は夏季休業明けの小中合同会議に設定することにした。			ブロック内相互評価後の気づき	・1小1中という連携条件を生かし、児童・生徒の状況を詳細にわたって把握することができた。とくに学習面では夏季休業中に9年間を見通した教科のつながりを小中合同会議で話し合い、児童・生徒の学習課題がどこにあるのかを探った。具体的には市学習状況調査のデータを考察し、各教科ごとに学力をつけるための方策を練った。中学校教職員の小学校授業と給食への参加、小学生の中学校授業と部活動体験を通し、小中教職員が児童・生徒理解のために昨年より一歩進んだ交流を持った。今後も小中交流の機会を増やしていきたい。		ブロック内相互評価後の気づき				
学校関係者評価	・児童生徒が楽しく安心安全な学校生活が送れるように自治会として協力をしていく。 ・挨拶など礼儀がしっかり出来ているので、このまま維持継続をしていきたい。 ・もっと開かれた学校と地域の繋がりをもちたいという希望が地域にあり、今後学校と地域でアイデアを出し合って、よりよい関係作りを進めたい。			学校関係者評価	・児童生徒が楽しく安心安全な学校生活が送れるようにこれからも継続して見守ってきたい。 ・今年度は、保護者や地域に呼びかけ、なかよし班活動の中でクリーンタイムを実施した。多くの地域の方が参加してくださり、地域清掃をすることができた。 ・開かれた学校と地域の繋がりをもちたいという希望が地域にあり、今後学校と地域でアイデアを出し合って、よりよい関係作りを進めたい。		学校関係者評価				
学校経営中期取組目標振り返り	教職員はそれぞれ「明日も来たいと願う学校」づくりに向かって取り組んでいる。先生が忙しそうに見えるためか「先生に相談できる」の回答が低い。相談することがあまりないことも考えられるが数値を誠実に受け止め、一層一人ひとりの思いや願いなどを丁寧に受け止め子どもに寄り添う指導に努め、子どもと教職員、子ども同士、学校と地域保護者との温かな人間関係づくりを進めていきたい。学力学習状況調査の分析を生かし「育てたい子どもの力は何か」を意識して、共に学ぶ楽しさを実感しながら基礎的な学力を身につけられるよう引き続き授業力の向上を目指す。			学校経営中期取組目標振り返り	今年度は学校の組織力を生かして、全職員で全児童を指導していく体制を強化した。そのおかげで、昨年度よりも評価が上がった項目がある。学校評価アンケートの保護者や教職員からは、基礎基本を大切にされた学力向上や挨拶、地域の教育力の活用などが課題としてあった。地域からも挨拶と地域の教育力の向上が課題としてあげられた。もっと地域の教育力を活用し、自分づくりやキャリア教育といった視点も取り入れながら教育活動を展開していきたい。そして、誰もが安心して楽しく学校生活を送ることができるよう全職員で今後も取り組んでいきたい。		学校経営中期取組目標振り返り				